

## 駅周辺の特性を考慮した鉄道とバスの乗継利便性評価手法の開発

鈴木崇正 武藤雅威 松原広 山本昌和

鉄道と他の交通機関との乗継利便性の向上は、鉄道全体のさらなる利用促進に資する。このため、お客様が負担や不便さを感じる乗継経路の特性を把握し、経路の利便性を定量的に評価することが重要であるが、その手法はこれまで確立されてこなかった。そこで、鉄道とバスの乗継経路の物理的特性に着目し、移動距離のほか歩行安全性やバス停構造など駅周辺の特性を考慮した、乗継利便性を定量的に評価する手法を開発した。

本手法の開発においては、はじめに一対比較による仮想乗継行動

調査を行い、お客様の多様な利便性評価観点を抽出・整理した。その上で、取得されたデータに基づき、ロジットモデルを援用した乗継利便性評価モデルを構築することにより、物理的特性に基づく乗継利便性の定量的評価を実現した。本手法は、将来の新駅設置における施策の提案・評価や、新しい乗継経路設置における利便性の定量的な事前評価(図)などにも活用できる。

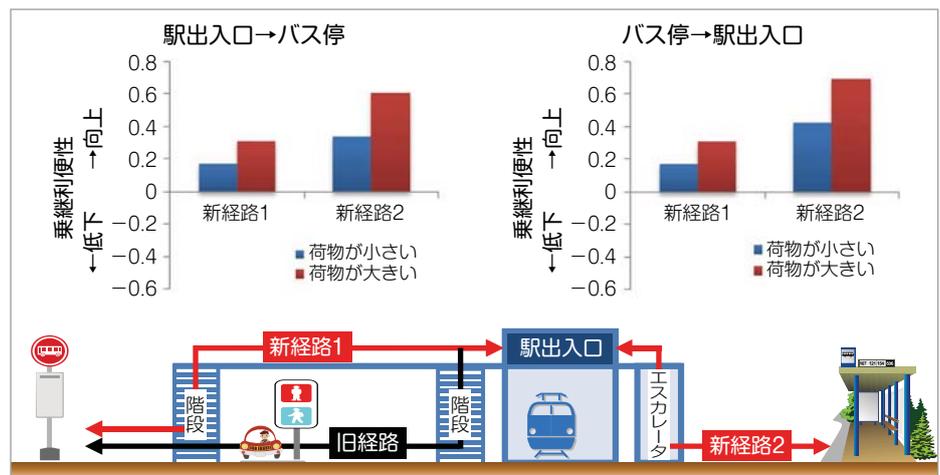


図 乗継利便性の計算例